

フィールドワークを終えて その1

2年4組学級通信 第10号 1996.5.10

今号と次号で、このあいだのフィールドワークの報告をしたいと思います。駅前で「鷹取教会」に行きたい人を募ったところ、10人の人が行きたいと言ってくれました。さらに、ちょうど教会の前で4人の人が合流し、計14人で教会におじゃましました。

前日のLHRで言ったように、電話では見学は断られたのですが、実際に訪ねると、すごくいねいに説明してもらうことができました。説明してくれたのは、定住外国人生活復興センターの金宣吉（キム・ソングル）さんです。「ちょっと雨模様だから、礼拝堂の方へ」と言って、ペーパードームに入れていただきました（5月6日付朝日新聞朝刊P22にペーパードームについての記事が載っています。図書館でも読んでみてください）。

「何について聞きたいですか」と問われたので、とりあえず「事前学習として、なぜ長田区の被害が多かったのか？なぜ外国人の死亡率が高かったのか？」という問いかけはあります。そこらあたりと、京都に住んでいる私たちができることは何か、ということが聞きたいです」と答えました。それに対して、金さんは自分のことから話しはじめられました。金さんは、その名前でもわかるように、在日朝鮮人です。生まれは長田区です。東京で仕事をしておられましたが、震災が起こったので、長田区に帰ってこられ、今の活動をはじめられました。

①なぜ外国人の死亡率が高かったのか…事前学習でも言ったとおり、死亡原因はほとんどが家の倒壊による「圧死」でした。では、どういう家がつぶれたのかというと、「古い家」がつぶれたのです。一方、在日朝鮮人の死亡率は日本人の1.5倍、中国人の死亡率は2倍、ブラジル人の死亡率は実に3倍だったといえます。このことは、在日外国人の人々は古い家に住まざるを得なかったという事を表しています。では、なぜ古い家に住まざるを得なかったのか？それは、低賃金労働に従事していたからです。つまり、「在日外国人の人々は、差別によって殺された」ということなのです。

さらに金さんは、次のようなことについて話されました。

②なぜ「定住外国人生活復興センター」の活動が必要なのか

③今、何が 필요한のか

これらについても大変重要な内容なのですが、紙面の関係で、次号にまわすことにします。

なお、このあいだの感想をNMさんが書いてくれました。

5月2日、遠足で神戸に行ったことが、すごく自分のためになった。正直言って「遠足やのに何で社会見学みたいにフィールドワークしやんなあかんの？」って思っていた。

神戸で乗りかえをして、鷹取駅までの車外の景色をながめていて、口では言い表せない、何とも言えない気持ちで、胸がしめつけられた。仮設住宅、テント、建設中のビルや家。1年以上たっているんだから、ほとんど元通りになっていると思っていたのに、実際にはこういった状況であることが、すごくショックだった。鷹取教会で金さんの話を聞いて、差別によって今まだ公園で生活している外国人の人々のことが印象深かった。今、神戸の人々に一番必要なのは、やっぱりお金だと思う。でも、今回神戸に行ってみて、お金も必要だけど、それよりも人手が必要だと言うことを金さんから聞いて知った。みんなは今、神戸の人々のために何ができると思いますか？私は4組のみんなでボランティアに参加して役立つのも、ひとつの方法だと思います。

みんなはどう思いますか？